# 第３回特色ある県立高校づくり懇談会

# 配布資料

# 第３回特色ある県立高校づくり懇談会
# 論点

## テーマ　特色化、魅力化について

・魅力ある選択肢を拡大させるために、

　どのような高校が必要か

・県境校や中山間地校の存続には、

　どんな特色化が必要か

第４回 論点の予定

テーマ　特色化、魅力化について

（第３回と同様の論点を想定）

# 長野県の高校の現状と、特色化・魅力化に関する論点

## 県立高校に対する様々な声

### 1　入口の多様な選択肢の拡大

・多様な進路や個性に対応した高校の選択肢を増やしてほしい
・在学中に専門資格を取得できる高校がほしい
・東京大学や医学部医学科などへの入学に重点を置いた高校がほしい
・不登校の生徒たちへの学びの場を充実させてほしい
・これからの時代に活躍できる力を身に付けられるようにしてほしい
・長野県らしく自然を生かした、また郷土愛を育める学びにしてほしい
・職業科でも大学進学の道を保障する仕組みがほしい
・より高度な専門教育を受けたい
・文化祭や修学旅行など、友達と充実した青春時代を過ごせる高校がほしい

### 2　県境校や中山間地校の課題

・他県の高校へ地元の中学生が流出している
・再編基準該当に伴う高校再編により地元から高校がなくなり、地域衰退に繋がる

## 関連データ

### 公立高校の学科別学校数比較（Ｒ４）

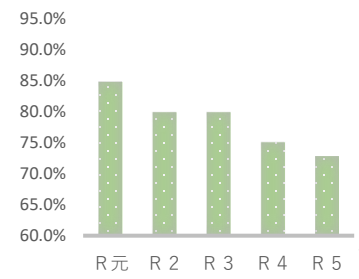
| （単位：学校数） | 長野県 | 全国平均 |
|---|---|---|
| 普通 | 64 | 51.26 |
| 農業 | 9 | 6.34 |
| 工業 | 11 | 9.23 |
| 商業 | 10 | 9.47 |
| 水産 | 0 | 0.89 |
| 家庭 | 3 | 3.62 |
| 看護 | 0 | 0.62 |
| 情報 | 0 | 0.45 |
| 福祉 | 0 | 1.23 |
| その他の学科※ | 13 | 9.62 |
| 総合学科 | 6 | 7.51 |

※県内のその他の学科：理数、体育、音楽、探究、国際教養など

（学校基本調査報告書より）

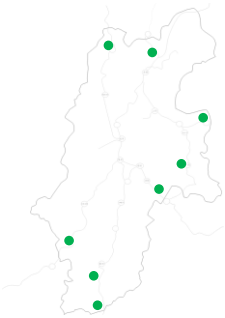
### 県境校の充足率

（入学者数/募集定員数）




（高校教育課調べ）

### 県境校の所在地



**長野県が推進したい県立高校での学び（これまでの議論を踏まえ）**

**どの学科でも生徒が希望する進路を叶えられ、**
**どんな社会でも活躍できる力を身に付けられる学び**

**探究を核とした学び　・　個別最適な学び　・　協働的な学び**

**第３回・第４回でみなさんに議論いただきたいこと**

**①　魅力ある選択肢を拡大させるために、どのような高校が必要か**
**②　県境校や中山間地校の存続には、どんな特色化が必要か**

## 特色化のイメージ

### 新たな学科の設置

**新たな学科は必要？**
**デジタル系学科？福祉学科？**
**その他にどんな学科が必要？**

### 県境校

**特色化の方策は？**
**県外への流出を止めるには？**
**県外からの全国募集は？**

〇県内の高校（５年平均）
・県境校充足率は75.9％
・県外進学者は年403人

### 地域連携

**デュアルシステム？**
**連携コーディネーターは？**
**高大連携？**

### 中高一貫校

**さらなる併設型は必要？**
（進学に有利？６年間環境変化がないのはどうなの？）
**市町村立との連携型は？**

〇県内の高校
・併設２校（全国平均1.9校）
・連携なし（全国平均1.6校）

### 個別最適な学び

**単位制の導入は？**
**インクルーシブな教育は？**
**ＩＣＴの活用？**

### 国際的な学び

**留学や海外生徒の受入は？**
**英語で学ぶ学校？**
**海外大学への進学は？**

〇国際教養科のある県立高校
・３校
〇バカロレア認定校
・県内２校（私立のみ）
・全国公立11校

### 全国募集

**全国や海外から募集？**
**どうすれば生徒が集まる？**

〇県内の実施高校（２校）
・白馬高校（国際観光科）
・飯山高校（スポーツ科学科）

### 大学進学

**特定の大学への進学支援を**
**特色とした高校は、**
**長野県に必要？**

〇県内の高校（Ｒ４）
・大学進学率　46.4％

### 職業系高校

**より高度な専門教育のために、**
**県立高専は必要？**

〇高専の現状
・県内１校（国立、工業科）
・公立は３校のみ

### その他

**高校にどんな特色**
**（授業、行事、部活動等）**
**があれば、**
**生徒たちにとって**
**充実した高校生活に**
**なるだろうか？**

# 進路先から見た県内の県立高校の状況（R4）

※大学短大進学率には浪人を含む、家居等は除く

| 区分 | | 第１通学区 | | | | 第２通学区 | | | | 第３通学区 | | | | 第４通学区 | | | | 全県 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 学校数 | 大学短大進学率平均 | 専修学校等進学率平均 | 就職率平均 | 学校数 | 大学短大進学率平均 | 専修学校等進学率平均 | 就職率平均 | 学校数 | 大学短大進学率平均 | 専修学校等進学率平均 | 就職率平均 | 学校数 | 大学短大進学率平均 | 専修学校等進学率平均 | 就職率平均 | 学校数 | 大学短大進学率平均 | 専修学校等進学率平均 | 就職率平均 |
| 普通科・普通科系専門学科（分校除く） | 大学等進学中心校（大学短大進学９割超） | 5校 | 96.2% | 2.7% | 0.7% | 3校 | 95.0% | 4.2% | 0.4% | 4校 | 93.8% | 4.3% | 1.3% | 3校 | 96.3% | 2.6% | 0.6% | 15校 | 95.3% | 3.5% | 0.8% |
| | 多様な進路選択校（専各等進学１割超） | 6校 | 63.2% | 29.8% | 5.7% | 6校 | 67.4% | 25.0% | 5.7% | 5校 | 69.8% | 23.1% | 6.1% | 5校 | 62.7% | 27.9% | 6.9% | 22校 | 65.8% | 26.5% | 6.1% |
| | 就職中心校（就職割合最多） | 2校 | 6.3% | 32.5% | 57.1% | 1校 | 24.6% | 26.2% | 47.7% | 5校 | 19.2% | 30.8% | 47.0% | 2校 | 17.6% | 34.1% | 45.6% | 10校 | 16.9% | 30.9% | 49.4% |
| 職業系専門科（普通科併設含む） | 農業科 | 3校 | 16.9% | 34.2% | 45.6% | 1校 | 15.2% | 41.0% | 42.9% | 3校 | 23.9% | 36.3% | 38.3% | 2校 | 27.9% | 40.0% | 30.0% | 9校 | 21.0% | 37.9% | 39.2% |
| | 工業科 | 2校 | 24.7% | 22.8% | 49.1% | 2校 | 13.7% | 33.8% | 51.1% | 3校 | 25.7% | 26.3% | 47.6% | 3校 | 21.6% | 28.7% | 46.6% | 10校 | 21.4% | 27.9% | 48.6% |
| | 商業科 | 3校 | 38.3% | 29.5% | 30.3% | 2校 | 39.8% | 37.6% | 18.3% | 4校 | 20.2% | 38.0% | 40.4% | 1校 | 30.5% | 38.1% | 27.6% | 10校 | 32.2% | 35.8% | 29.2% |
| | 家庭科 | 1校 | 15.2% | 45.5% | 33.3% | 1校 | 37.2% | 42.3% | 19.2% | 1校 | 10.0% | 55.0% | 35.0% | - | - | - | - | 3校 | 20.8% | 47.6% | 29.2% |
| 総合学科 | | 1校 | 18.9% | 43.2% | 35.1% | 2校 | 26.4% | 36.8% | 34.0% | - | - | - | - | 2校 | 36.8% | 43.4% | 17.8% | 5校 | 27.4% | 41.1% | 29.0% |
| 多部制 | | - | - | - | - | 1校 | 12.4% | 40.0% | 44.8% | 1校 | 17.8% | 32.2% | 36.7% | 1校 | 10.4% | 29.9% | 31.3% | 3校 | 13.5% | 34.0% | 37.6% |

# 資料一覧

（第３回　特色ある県立高校づくり懇談会）


１　新たな学科

新たな学科の設置について　・・・6

２　国際的な学び

（１）国際的な学びについて　・・・7

（２）国際バカロレアについて　・・・8

３　県境校

県境に所在する高校について　・・・9

４　全国募集

全国募集について　・・・10

５　地域連携

（１）高校におけるデュアルシステムについて　・・・11

（２）学校と社会をつなぐ連携コーディネーターについて　・・・12

（３）高大連携について　・・・13

６　大学進学

大学進学を切り口とした特色化について　・・・14

７　中高一貫校

中高一貫校について　・・・15

８　職業系高校

職業系高校について　・・・16

９　個別最適な学び

（１）単位制について　・・・17

（２）高校におけるインクルーシブな教育の充実について　・・・18

（３）ＩＣＴを活用した教育について　・・・19

10　上田高校保護者アンケート結果　・・・20

11　中間まとめ　・・・23

# 新たな学科の設置について

**概要**

現在長野県立高校には、普通科、農業科、工業科、商業科、家庭科、総合学科、その他の学科（探究科、理数科、音楽科など）が設置されている。

学科設置という切り口から特色化を考えたとき、これからの時代に必要な学びや、地域からの声に対応するために、新たな学科を設置することは必要だろうか。

**例示１　デジタル系学科**

**（１）情報系学科の県内及び全国の設置状況（Ｒ５）**

**県内の設置状況**

・なし（私立含む）

・高校再編により新たに設置を予定の総合技術高校には、ＤＸに対応するデジタル系新学科を設置し、この新学科を結節点として各専門学科（農・工・商）の学びを融合させていくことを構想。

**全国の設置状況**（公立高校）

15 都府県　全日制 17 校　定時制２校

| | 単置 | 併設 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 普通 | 工業 | 商業 | その他 |
| 全日 | 0 | 3 | 1 | 2 | 11 |
| 定時 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |

（全国専門学科情報科高等学校長会会員校数）

**（２）設置（導入）にあたっての課題**

・これから求められる情報に関する学びの把握と、それに対する教育課程の構想、構築

・専門知識を持った教員の確保

**例示２　福祉に関する学科（介護福祉士資格の取得に関して）**

**（１）概要**

「福祉系高等学校」に指定された高校では、介護福祉士※1 の国家試験の受験資格が得られる。福祉系高等学校とは、カリキュラム、教員、施設・設備、実習施設など、介護福祉士養成課程の基準を満たす高等学校及び中等教育学校として、文部科学大臣及び厚生労働大臣が指定した学校のこと。

※1 介護に係る一定の知識や技能を習得していることを証明する国家資格。福祉業界からは、専門的知識を備えた即戦力がほしいとの要望が寄せられている。

**（２）県内と全国の状況（Ｒ４）**

（高校教育課調べ）

| | 公立 | 私立 |
|---|---|---|
| 福祉系高等学校（修了時に介護福祉士試験の受験資格を取得できる） | 0 校<br>（全国）都道府県立 66 校、市立１校 | 2 校<br>（エクセラン※3<br>松本国際（Ｒ４～募集停止））<br>（全国）51 校 |
| 福祉を学べる高校※2（系列・コース） | 10 校<br>（上田千曲、中野立志館、丸子修学館、東御清翔、蓼科、茅野、高遠、阿南、塩尻志学館、梓川） | 0 校 |

※2 福祉を学べる高校においても「介護職員初任者研修」や「社会福祉・介護福祉検定２級」などの取得は可能

※3 エクセラン高等学校ではＲ４卒業生 13 名が介護福祉士国家資格合格。

**（３）福祉系高等学校設置にあたっての課題**

・必要科目 53 単位※4 以上（うち介護実習 13 単位は入所・通所含めた施設実習であり、３年間で 50 分授業 416 回分）履修することが必要で、３年間で必要単位を取得するには、他の学科に比べ生徒や教員への負担が大きくなる教育課程を組まなければならない。　※4　1 単位＝50 分×35 週＝1,750 分

・資格取得に指定された単位取得は、ひとつの学校の教育課程の中で完結させなければならず、高校で取得した単位は、上級学校や高校専攻科に引き継ぐことはできない。

・施設や設備、実習施設などの整備が求められる。

# 国際的な学びについて

## １　概要

長野県立高校では、国際的な学びの拠点となる国際教養科を設置している。

英語コミュニケーション力を高めるだけでなく、第２外国語の授業や様々な交流行事、海外研修旅行を通じて、日本の文化・伝統および異文化に対する理解を深め、豊かな国際感覚を磨くとともに、国際社会で活躍するための行動力や発信力を身に付けることを目的とする。

## ２　国際的な学び（国際教養科）の特長

・コミュニケーション力が高く積極的な生徒、多様な背景を持つ生徒が集まりやすく、海外帰国生や短期留学生を受け入れやすい環境が整っている。

・科全体として、英語の資格取得、スピーチ大会やディベート大会等に取り組みやすい。

・第２外国語の履修により、一層グローバルな視点の醸成がなされる。

・外国語指導助手（ALT）2 名が配置されていることにより、英語の 4 技能のうち特にスピーキング技能の向上に効果的。

・外国にルーツを持つ多様な背景を持つ生徒たちの入学により、生徒たちの多様性の理解や、協働的に物事に取り組む姿勢が養われている。

・国際交流が盛んであるという高校の明確なイメージに繋がっている。

## ３　県内の事例

| 学校名<br>（設置年） | 第 2 外国語 | 海外研修旅行　等 |
|---|---|---|
| 長野西高校<br>（1999 年） | ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語 | オーストラリア 14 日間 64 名（R4）<br>海外教育機関への進学 2 名（R3） |
| 上田染谷丘高校<br>（2001 年） | フランス語、スペイン語、中国語、韓国語 | 台湾・台北 9 日間 15 名（R４）<br>フランス・アメリカ・ブラジル・カンボジア・マレーシア 各 1 名（R4） |
| 飯田風越高校<br>（2002 年） | フランス語、スペイン語、中国語、韓国語 | オーストラリア 14 日間 38 名（R4）<br>海外教育機関への進学 2 名（R4）、1 名（R3） |

※全県立学校の海外教育機関への進学実績　R4：15 名（大学（予科含）11 名、語学学校 4 名）

## ４　現状の課題

・多様な生徒が集まり進路選択も様々であるため、きめ細かな進路指導が求められる。

・海外研修旅行の経済的負担が大きい。

・理系科目を苦手とする生徒が多く、カリキュラムも文系に偏りやすい。

# 国際バカロレアについて

## 1　概要

国際バカロレア（IB）は、国際バカロレア機構（本部ジュネーブ）が提供する国際的な教育プログラムで、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的とする。

高校レベルのディプロマ・プログラム（DP）は国際的に通用する大学入学資格（IB 資格）が取得可能であり、世界の大学入学者選抜で広く活用されている。

【IB が目指す 10 の学習者像】　（参考：文部科学省 IB 教育推進コンソーシアム）

inquirers 探究する人、knowledgeable 知識のある人、thinkers 考える人、
communicators コミュニケーションができる人、principled 信念をもつ人
open-minded 心を開く人、caring 思いやりのある人、risk-takers 挑戦する人
balanced バランスのとれた人、reflective 振り返りができる人

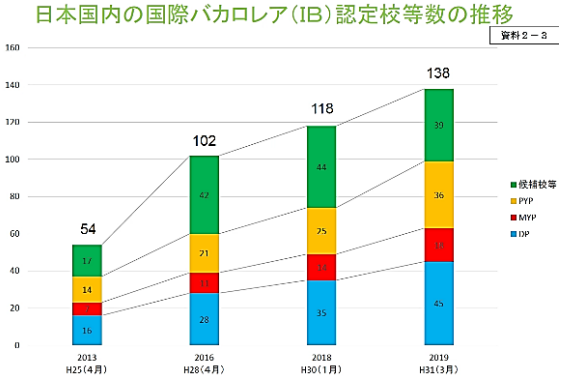
## 2　県内の状況・全国との比較

・県内　私立 2 校　公立なし
・全国　211 校（令和 5 年 6 月 30 日現在）

そのうち
・学校教育法第 1 条に規定されている学校　73 校
・ディプロマ・プログラム（DP）認定校　67 校
**・公立高等学校認定校（中等教育学校含む）11 校**

・世界　159 以上の国・地域、約 5,600 校

日本国内の国際バカロレア（IB）認定校等数の推移




（参考：文部科学省 IB 教育推進コンソーシアム事務局）

## 3　国際バカロレアのメリット・デメリット

（1）メリット
・世界中の大学入学資格が得られる。
・教科やコミュニティを超えて学習するなかで、リーダーシップが身に付く。
・探究型教育に力を入れており、課題解決力を身に付けることができる。

（2）デメリット
・授業内容が日本のカリキュラムと大きく異なることにより、日本の大学受験、特に一般入試において不利となるため、進路実現が困難となる場合がある。
・特に日本語 DP の場合、ＤＰの科目と日本の学習指導要領の科目との代替等の対応関係が文部科学省から示されてはいるが、科目数が多くなるため、生徒及び教員への負担が大きくなる。

## 4　県内の事例（未来の学校構築事業「国際的な教育プログラムを研究する高校」飯田風越高校）

（1）学習内容
・海外研修 14 日。多様な文化の理解と受容、留学、海外進学等に向けた特別講座の実施。
・外国語指導助手（ALT）2 名配置による少人数 TT 実施。海外からの留学生 1 名在籍。

（2）それによる成果
・「海外大学進学は自分でも可能」と考える生徒が 8 名から 23 名へと大幅に増加した。
・海外進学に対する生徒の興味・関心が高まり、つばさプロジェクト等の留学企画への応募が増加した。また、国際教養科在学の生徒 5 名程度が海外進学を希望している。

## 5　設置（導入）にあたっての課題

・経費負担の増
例）年会費 100 万円、定期評価訪問費 50 万円、論文チェック用ソフト 30 万円
　　＋　その他（人件費＋研修費＋施設整備費など）
・高度な内容を指導できる教員（日本人・外国人ともに）の確保及び研修
・一定数の入学生を確保できるか

# 県境に所在する高校について

## 1　現状と課題

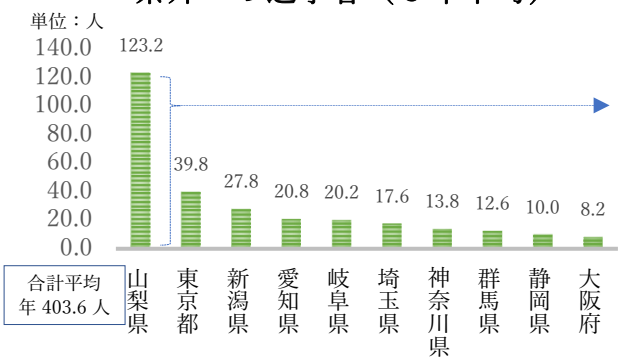
・県境校を含む中山間地校には、できる限り存続できるよう都市部校とは異なる再編基準を設けている。しかし、有効な施策を講じなければ、少子化による小規模化に拍車がかかり、再編基準該当に伴う高校再編により高校がなくなり、該当市町村の衰退に繋がりかねない。
・県境に近い地域では、他県の高校に流出している状況もある。
・県境校充足率は 75.9%と全日制高校平均 94.7%と比べ低い。
・中山間地校等の小規模校は、①生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな支援が可能②地域との連携を活かした教育活動を行いやすく、地域の担い手を育成する等、地方創生、地域活性化の観点からも重要な役割を果たすことが可能。
・**このような利点や役割を活かして、どう特色化・魅力化を図っていくかが課題。**

## 2　県境にある高校の充足率

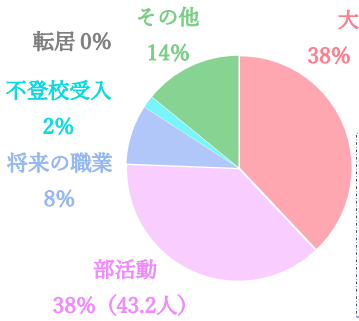
| 高校名 | 学科 | 令和３年度 | | | 令和４年度 | | | 令和５年度 | | | 平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 定数 | 入学 | | 定数 | 入学 | | 定数 | 入学 | 充足率 |
| 北部高校 | 普通 | 87.5% | 80 | 70 | 78.8% | 80 | 63 | 62.5% | 80 | 50 | 76.3% |
| 軽井沢高校 | 普通 | 93.8% | 80 | 75 | 101.3% | 80 | 81 | 95.0% | 80 | 76 | 96.7% |
| 小海高校 | 普通 | 67.5% | 80 | 54 | 51.3% | 80 | 41 | 57.5% | 80 | 46 | 58.8% |
| 富士見高校 | 普通 | 102.5% | 40 | 41 | 102.5% | 40 | 41 | 80.0% | 40 | 32 | 95.0% |
| | 農業科 | 100.0% | 40 | 40 | 102.5% | 40 | 41 | 100.0% | 40 | 40 | 100.8% |
| 阿智高校 | 普通 | 100.0% | 80 | 80 | 93.8% | 80 | 75 | 102.5% | 80 | 82 | 98.8% |
| 阿南高校 | 普通 | 85.0% | 80 | 68 | 56.3% | 80 | 45 | 58.8% | 80 | 47 | 66.7% |
| 蘇南高校 | 総合 | 43.8% | 80 | 35 | 61.3% | 80 | 49 | 48.8% | 80 | 39 | 51.3% |
| 白馬高校 | 普通 | 57.5% | 40 | 23 | 65.0% | 40 | 26 | 52.5% | 40 | 21 | 58.3% |
| | 国際観光 | 62.5% | 40 | 25 | 45.0% | 40 | 18 | 82.5% | 40 | 33 | 63.3% |
| 県境校平均 | | 79.8% | 640 | 511 | 75.0% | 640 | 480 | 72.8% | 640 | 466 | 75.9% |
| 全校平均 | | 94.8% | 14,000 | 13,278 | 94.8% | 14,120 | 13,390 | 94.5% | 13,960 | 13,197 | 94.7% |

## 3　長野県から県外への進学状況（私立含む）　H30～R４の５年間

### 県外への進学者（５年平均）




### 山梨県への進学理由内訳（5年平均）




大学進学のうち 72.9%（31.8 人）が北杜市立甲陵高校へ進学。当高校は募集定員に「長野県枠」を設定。入学者選抜後期日程では、長野県立と併願可能。

（※右のグラフは進学者のうち理由が把握できた生徒数分の数値のため、左の表とは若干数字が異なる。）

## 4　山梨県との県境となる諏訪地区（旧７区）の県外・区域外への流出の状況（Ｒ４）

| 区分 | 地区 | 諏訪地区（旧７区） | | 差 |
|---|---|---|---|---|
| | | 転入(A) | 転出(B) | (A-B) |
| **県外** | **山梨県** | **３人** | **80 人** | **△77 人** |
| 県内 | 上伊那方面（旧８区） | 99 人 | 10 人 | +89 人 |
| | 塩尻・松本方面（旧 11 区） | 115 人 | 61 人 | +54 人 |

※長野県では一部の県と結んでいる協定や慣例等により、隣接県の生徒を一定の条件の中で受け入れている。北杜市とは協定等の取り決めがない。

# 全国募集について

## １　概要

全国募集とは全国（長野県外）から生徒募集を行うことである。保護者の転住を伴う、もしくは保護者の居住する長野県に戻る入学志願は、現在も全校で認められており、県外からの志願であっても全国募集という定義からは外れる。また、県境隣接地域からの入学志願も除く。

## ２　県内の状況・全国との比較

**県内の状況**

①飯山高校　スポーツ科学科

出願資格　：スポーツ科学科に志願を強く希望し、かつ入寮する者

県外生定員：なし

学生寮　　：県立（学校が運営）

県外生徒率：Ｒ３　15.8%（6 人/38 人）
Ｒ４　21.6%（8 人/37 人）
Ｒ５　29.4%（10 人/34 人）

②白馬高校　国際観光科

出願資格　：国際観光科に志願を強く希望する者

県外生定員：なし

学生寮　　：白馬・小谷両村が設置し、白馬山麓事務組合が運営

県外生徒率：Ｒ３　31.2%（8 人/25 人）
Ｒ４　27.8%（5 人/18 人）
Ｒ５　30.3%（10 人/33 人）

**全国の状況**

①実施校　306 校（H30 文科省資料）
341 校（R2 宮城県教委資料）

②タイプ　・特色ある学科での募集
・特定の部活動による募集
・特に条件なし　など

③県外生定員　県により様々

## ３　全国募集のメリット

・多様な価値観を持つ生徒同士がふれあい、切磋琢磨できること
・新たな人間関係の構築と交流が拡大し、コミュニケーション力育成が期待できること
・県外生徒が、高校 3 年間を過ごす地域への愛着を持つこと

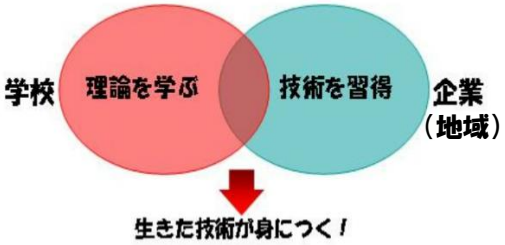
## ４　導入にあたっての課題

・募集の方法によっては、県内生徒の入学に影響が及ぶ可能性
・県外の学生を受け入れる学生寮等のあり方の検討
・学生寮等設置とする場合の、設置・維持に係る費用、運営に関する人的配置

# 高校におけるデュアルシステムについて

## １　概要

高校におけるデュアル（２つの）システムとは、学校と企業（地域）が協力して生徒を育成する職業教育である。３日間前後で実施するインターンシップよりも長期にわたり就業体験を行う中で、学習をより深めるとともに、企業が必要とする実践的な技能・技術を身に付けたり、職業観や社会観といった職業人としての資質を磨くことができる。




## ２　県内での取組事例（６校の実践）

**○池田工業高等学校　平成 18 年～（18 年目）**

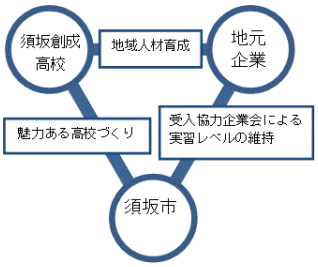
機械・電気学科、建築学科（３年希望生徒が実施）
科目「課題研究」にて単位認定
週１日（年 25 日間程度）

造業、建設業、農協、社会福祉協議会などの現場で、実践的な技術を身に付けることができる
・高齢者用電動・手動カートの設計・製作
・池工版デュアルシステム発電所（水車による小水力発電、高校による水利権取得）
・安曇野ちひろ美術館内の机や椅子の製作
・農業用機械の修理・メンテナンス
・福祉に関する実体験、高齢者との交流　　等

**○須坂創成高等学校　平成 27 年～（９年目）**

創造工学科（全生徒が実施）
３年時に学校設定科目「企業実習」にて単位認定

週１日（10 日間程度）




**１年次　地域の産業を知る**
地域の産業を調べたり、企業見学、企業の方のお話を聞くなど、地域の産業を知ることで、将来を見据えた専門学習へのモチベーションを高めることができます。

**２年次　地域の企業で就業体験**
３日～５日間の就業体験を２社で実施します。仕事や社会を知ることで、社会人として必要なスキルや職業の適性を考えることができます。

**３年次　地域の企業で実践的な実習**
１社で週１日（１０日間程度）の企業実習を実施します。工業人としての姿勢や実践的な技術・技術を身につけることができます。

**○軽井沢高等学校　平成 28 年～（８年目）**

普通科（3 年次選択科目にて希望生徒が実施）
学校設定科目「デュアル」にて単位認定
週１日（年 15 日間程度）

**○白馬高等学校　令和元年～（５年目）**

国際観光科（3 年次選択科目にて希望生徒が実施）
学校設定科目「観光Ⅰ」の増加単位にて単位認定
土日、長期休業中（年９日間程度）

**○小諸商業高等学校　令和２年～（４年目）**

商業科、会計システム科（3 年希望生徒が実施）
科目「課題研究」の一部として単位認定
週１日（年 15 日間程度）

**○茅野高等学校　令和５年～（１年目）**

普通科（２年生全員実施）
「総合的な探究の時間」にて単位認定
週１日（年 22 日間程度）

## ３　デュアルシステムの効果及び課題

＜効果＞

○実際に企業で、より実践的な技術・技能を身に付けることができる。
○社会人（職業人）としての意識をリアルに学ぶことができる。
○自分の適性を自覚し、進路決定に役立てることができる。（支援企業に就職する例もある。）

＜課題＞

■企業側の負担の問題。（材料や消耗品等の費用面、社員が生徒を指導する際の準備等）
■生徒が実習に参加してからのミスマッチの修正
■進学（専門学科以外）を希望する生徒に対する指導（モチベーション等）

# 学校と社会をつなぐ連携コーディネーターについて

## １　概　要

・生徒自らが問いを立て、多様な他者と協働して課題に取り組めるような学びの環境を整備するためには、学校内で学びを完結させるのではなく、学校を積極的に開き、社会とつながっていく仕掛けが必要である。その中心的な役割をもち、専門的に実践するのが連携コーディネーターである。

・社会と連携した学びの効果として

①個々の生徒のニーズに応じた探究学習のフィールドが広がり、学びがより深まる

②魅力的な大人に出会う機会が増加する

③地域の人々や産業界と連携を強めることで、地域の良さを確認し、卒業後も地元に貢献したいと考える若者が増える　　などが挙げられる。

【背景】

・「新学習指導要領」：地域の企業等との協働を前提とした探究学習の要請

・「第４次長野県教育振興基本計画」：個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

“一人ひとりが主体的に学び他者と協働する学校をつくる”等　を位置付け

## ２　県内の状況

・Ｒ５年度、県内２校に連携コーディネーターをモデル的に先行配置するとともに、検討ワーキンググループを設置し、コーディネーターのあり方等を議論。

・具体的な内容

| | 池田工業高校 | 野沢北高校 |
|---|---|---|
| 業務内容 | 企業訪問・インターンシップ受入調整、職業研修の実施　等 | 探究活動支援、外部サポーターの発掘、コンソーシアムの立ち上げ　等 |
| 実績・効果 | ・就職でのミスマッチ解消<br>・地域と学校の一層の繋がり | ・生徒の問題発見能力の向上<br>・教員や生徒への地域資源の提供 |

## ３　連携コーディネーターの役割とその効果

・異動がある教員ではなく、各校のニーズに応じた連携コーディネーターを配置することで、各地域の特色を活かした持続可能な教育活動が行える。

・地域資源（人・もの・課題等）を掘り起こすことで、生徒は探究的な学びをより自分の課題として実践的に深めることができる。

・学校の魅力・特色を中学校や地域に常時発信したり、説明会を開催したりするなど、学校への理解を深める機会を増やすことで、入学希望者が増えることが期待できる。

## ４　配置にあたっての課題

・業務内容が曖昧とならないための、連携コーディネーターの配置目的や役割の明確化

・研修会実施などによる連携コーディネーターの質の担保と向上、適任者の確保

# 高大連携について

## 1　概要

高大連携とは高等学校と大学とが連携する取組のことである。高校生が大学の授業を受ける、大学の教員が高校で出前授業を行うといった、高校生が大学レベルの教育・研究に触れる機会を増やしたり、高校と大学の教員同士が交流し、ネットワークを構築したりすること等を目指す。

## 2　県内の状況

（1）各校の連携の状況（令和５年度学校経営概要による）

**大学と連携している県立高校（令和４年）**

| 項目 | 全日制 79 校 | | 定時制・通信制 23 校 | |
|---|---|---|---|---|
| | 校 | % | 校 | % |
| ①　連携協定を結んでいる | 34 | 43.0% | 5 | 21.7% |
| ②　教科・総合的な探究の時間 | 30 | 38.0% | 2 | 8.7% |
| ③　特別活動（学校行事・生徒会活動等） | 7 | 8.9% | 1 | 4.3% |
| ④　部活動 | 6 | 7.6% | | |
| ⑤　その他 | 7 | 8.9% | | |

※令和５年９月本課調査によると、信州大学と連携を実施している高校数は 44 校（53.7%、回答数 80 校 82 課程中）となっている。

（2）信州大学「長野県内高校生による科目等履修生（先取り履修生）」

信州大学では、令和 4 年度後期より、信州大学への進学を視野に入れている高校生に対して、大学の授業科目を履修する機会を提供している。学びの複線化・多様化を高めるとともに、信州大学に対する理解を深めることを目的としている。

（参考１）履修生徒数（のべ数）

・令和４年度後期 13 名、令和５年度前期 29 名、令和５年度後期 13 名。

・修得した単位は、信州大学入学後の卒業に必要な単位として有効。

・それとは別に「学校外における学修」として卒業単位に加えている高校もある。（上田高校）

（参考２）令和５年度後期の開設講座（９講座）

古典文学史Ⅰ、古典文学史Ⅱ、素朴な集合論ゼミ、集合論、繊維化学の基礎、STEAM ものづくり入門ⅠB、ATEAM ものづくり入門ⅡB、ミクロ経済学入門
データサイエンスリテラシー

## 3　県内の事例

| | 屋代高校 | 長野工業高校 |
|---|---|---|
| 実施内容 | 大学や研究機関等と連携し魅力的なカリキュラムを開発。<br>・大学や企業と連携した課題研究<br>・大学や企業による先進的な連携授業 | 信州大学工学部の研究室体験等を通し、大学の高度な先端技術研究に触れる。 |
| 期待される効果 | 課題発見能力、協働して問題解決にあたる能力等の向上。 | 思考力や想像力、実践力や技術力の向上。 |

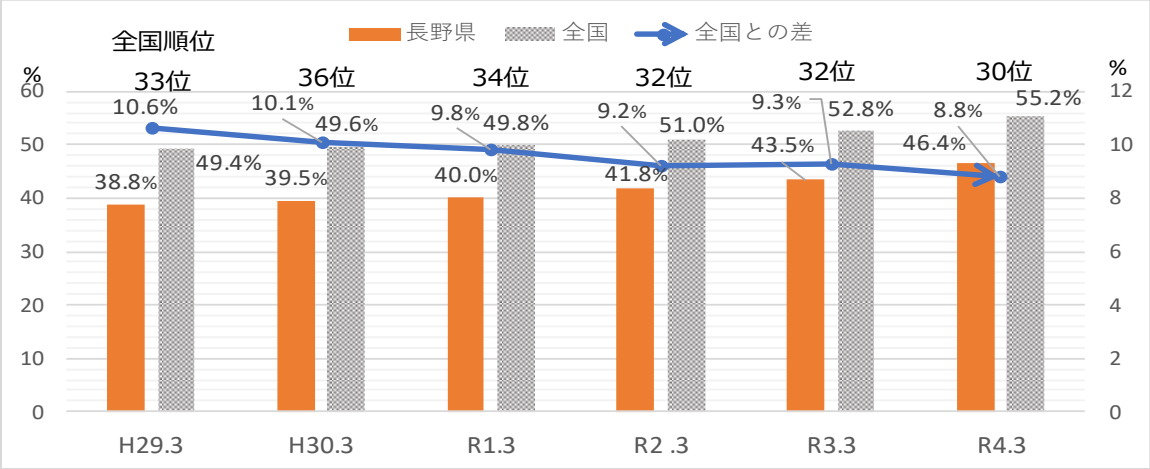
# 大学進学を切り口とした特色化について

## 1　論点

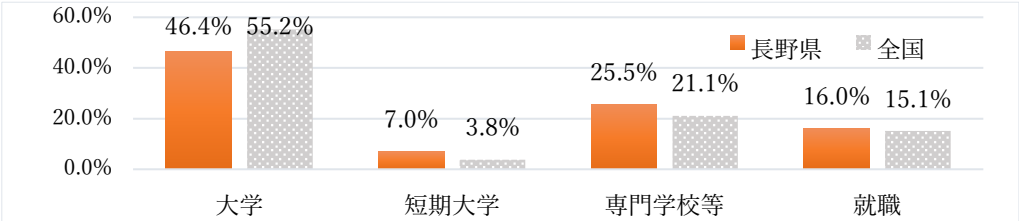
<u>特定の大学への進学支援を特色とした高校は、長野県に必要か。</u>

・生徒や保護者のニーズにマッチしているか。
・メリットとデメリットは、何が考えられるだろうか。
・生徒が進学希望を実現していくために、個別にどんな支援ができるか。

## 2　県内現役高校生の４年制大学進学率等の現状　（学校基本調査より作成、私立含む）




## 3　進学先別の全国との比較（令和４年３月卒業生実績）




## 4　県外の事例

| 東京都 | 大阪府 |
|---|---|
| 進学対策に組織的に取り組む高校を指定。<br>・進学指導重点校　　７校<br>・進学指導特別推進校　７校<br>・進学指導推進校　　15 校<br><br>＜教育委員会の主な支援＞<br>・予備校等の外部講師の学校への派遣<br>・主要教科への教員加配<br>・公募制による教員人事配置 | 豊かな感性と幅広い教養を身に付けた、社会に貢献する志を持つ、知識基盤社会をリードする人材を育成する高校を指定。<br>・グローバルリーダーズハイスクール　10 校<br><br>＜教育委員会の主な支援＞<br>学力向上や進路実現、学校独自の取組に対する支援のための予算措置 |

## 5　生徒・保護者アンケート（第１回懇談会の再掲）

<u>高１進学意識調査（R4.8）</u>
（高１全生徒　回答率 79.0%　回答数 11,032 件）

「高校選択の際大切にしたこと」

普通科
１雰囲気が良い(38%)
２自宅から近い(37%)
３合格できそう（35%）
４大学進学に有利（27%）
５授業についていける（24%）
※複数回答

<u>保護者のニーズ（R4）</u>
(県内 800 人以上回答のアンケート)

「高校選択で重視したこと」

１雰囲気　(67.5%)
２将来の仕事関連　(54.4%)
３自宅から近い　(52.7%)
４特色がある　(48.3%)
５大学進学に有利　(42.2%)
※複数回答

# 中高一貫校について

## 1　概要

中高一貫校とは、従来の中学校・高等学校制度に加えて、６年間の一貫した教育課程や学習環境の下で学ぶ機会を選択できるようにすることで、教育の多様化を推進し、生徒一人ひとりの個性をより重視する教育を目指す学校のこと。以下の３種類がある。

| | |
|---|---|
| 中等教育学校 | 中学校と高等学校の課程を統合し、一つの学校として、一体的に教育を行う。 |
| 併設型 | 同一の設置者が中学校と高等学校を接続した教育を行う。高校選抜は行わない。 |
| 連携型 | 市町村と都道府県など、設置者が異なる中学校と高等学校が、教育課程の編成や教員・生徒間交流等について連携して教育を行う。 |

## 2　県内の状況・全国との比較（R4）

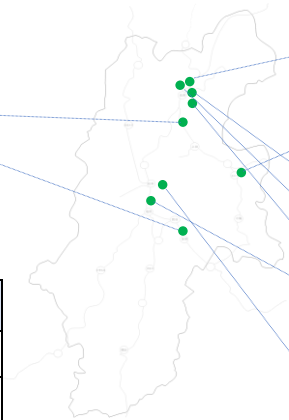
**県内の状況**

**県立（併設型）　２校**
・屋代高校附属中学校（2012 年）
・諏訪清陵高校附属中学校（2014 年）
**※連携型はなし**

**＜倍率の推移＞**

| | R元 | | R２ | R３ | R４ |
|---|---|---|---|---|---|
| 屋代 | 3.25 | | 3.18 | 2.69 | 2.98 |
| 諏訪清陵 | 2.81 | | 2.35 | 2.76 | 2.34 |

**※両校とも２クラス募集**



**市立（併設型）　１校**
・長野市立長野中学校（2017 年）

**私立（併設型）　５校**
・佐久長聖中学校（1995 年）
・長野日本大学中学校（2004 年）
・長野清泉女学院中学校（2009 年）
・文化学園長野中学校（2014 年）
・松本国際中学校（2022 年）

**私立（中等教育学校）　１校**
・松本秀峰中等教育学校（2010 年）
（2024 年に長野市に１校開校予定）

**全国の状況（都道府県立中高一貫校）**

**＜設置数＞**

| | 併設型 | 連携型 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 全国の平均 | 1.9 | 1.6 | 3.6 |
| 長野県 | 2 | 0 | 2 |

**＜上位の自治体＞**R４

| | 併設型 | 連携型 |
|---|---|---|
| 割合１位の県 | 和歌山県<br>**13.9%（５校）** | 福井県<br>**12.0%（３校）** |
| 長野県 | 2.5%（２校） | 0%（0 校） |

## 3　中高一貫校（併設型）の成果と課題（「第１期長野県高等学校再編計画まとめと課題の整理」より）

（１）成果
・広域から期待が寄せられる学校として定着
・６年間の計画的・継続的な学習活動・探究活動が効果的に展開
・異年齢集団の継続的な特別活動等により社会性や豊かな人間性が育成
・教員の相互乗り入れによる教育現場の活性化が期待

（２）課題
・生徒育成ビジョンのより一層の充実が必要
・カリキュラム等の研究を深め県民の期待に応えることが必要
・クラス・講座編成について研究を進めることが必要
・生徒が心身ともに充実した生活を送れるよう丁寧な対応が必要
・県立中学校へ進学する目的をより明確にすることが必要
・教員の多忙化や地域との関わりについての検討が必要

## 4　県教育委員会の考え方（「第１期長野県高等学校再編計画まとめと課題の整理」より）

少子化に歯止めがかからず市町村立小中学校の統廃合が進められる中にあっては、新たな県立中学校を設置することの影響は大きい。現在、県立２校のモデル校で、ある程度の広域から生徒を集め、県民の認知の深まりとともに志願状況等が落ち着いてきていること、また、モデル校を設置した以降にも市立・私立の併設型中高一貫校が設置されている状況にあるため、モデル校と同じ併設型の県立中高一貫校については、現行の２校体制を維持することが適切であると考える。

# 職業系高校について

## ●現状

長野県では、農業、工業、商業などの専門学科を複数持つ総合技術高校を設置し、学科横断的な学びを進めることで社会変化に柔軟に対応する専門性を育成できると考えている。

一方、職業高校のあり方として、より高度な専門教育を期待する声もあり、県立の高等専門学校（高専）の設置などの特色化も考えられる。

## ●高等専門学校（高専）について

### １　概要

高等専門学校とは、実践的・創造的技術者を養成することを目的とした高等教育機関。

５年一貫教育で技術者に必要な専門知識とそれを応用する力を身につけるため、理論だけでなく実験・実習に重点を置く。

設置学科は、例として工業系、商船系、情報系、経済・流通系学科がある。

※卒業すると準学士と称することができ、専攻科まで修了すると学士の学位を取得できる。

### ２　県内の状況・全国との比較

**県内の状況**　国立１校　長野工業高等専門学校（長野市）　　※県立高専はない

- 工業科（情報エレクトロニクス系、都市デザイン系、機械ロボティクス系）
- 募集定員と平均倍率：　毎年 200 人、1.55 倍（H19～R5）
- 進学就職率：毎年ほぼ 100%（卒業生一人に対し、29.6 倍の求人倍率）
- 学生寮あり（収容定員 544 名）　　※これらの情報は、長野高専のホームページより引用

**全国の設置状況**　58 校（国立: 51　公立: 3　私立: 4）　R5 現在

**複数ある都道府県（多くが国立）**

北海道４校（工業４）
三重県３校（工業１、商船１、私立工業１）
山口県３校（工業２、商船１）
東京都３校（工業１、都立工業１、私立工業１）
兵庫県２校（工業１、私立工業１）
広島県２校（工業１、商船１）
徳島県２校（工業１、私立工業１）
愛媛県２校（工業１、商船１）
福岡県２校（工業１）

**高専がない都道府県**

埼玉県、神奈川県、山梨県、佐賀県、滋賀県

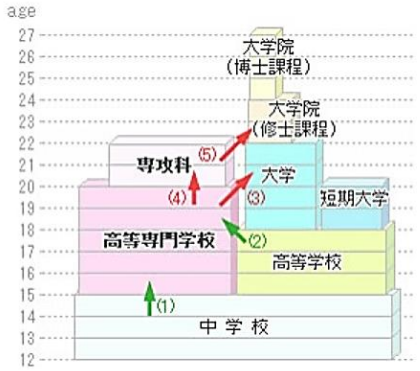
**全国の公立高専の事例**

| | 定員（R5） | 倍率（R5） | 都府県内の他の状況 |
|---|---|---|---|
| 東京都立産業技術高専 | 256 | 1.73 | 国立１校<br>私立１校 |
| 大阪公立大学工業高専 | 選抜 80<br>学力 80 | 1.85<br>1.63 | なし |
| 神戸市立工業高専 | 240 | 1.7 | 国立１校 |

**私立の特色例**

- 国際高等専門学校（石川県）　工業科　英語で学ぶ全寮制＋金沢工業大学・大学院と連携
- 神山まるごと高専（徳島県）　工業科　専門技術＋起業家精神　全寮制　学費実質無料

### ３　高等専門学校の立ち位置




1. 中学校卒業段階の学生が入学
2. 高校卒業者は高専への編入資格がある
3. 高専卒業者は大学への編入の資格がある
4. 高専卒業者は高専の専攻科に進学する資格がある
5. 専攻科を修了して「学士」を得た者は、大学院への入学資格がある

（国立高等専門学校機構のホームページより）

### ４　県立高専設置の効果

- ５年一貫教育による専門技術者の育成
- 県内に高専が２校となり、学生の選択肢増
- 地元企業からのニーズや期待に応えられる。
- 卒業生は、大学に３年次編入できる。

### ５　県立高専設置にあたっての課題

- 一定数の入学生を確保できるか
- 施設整備に係る費用負担（施設・設備はどのような学びを行うかによる）
- 教員の確保（専門科目、一般科目ともに博士、修士の学位を持った教員が主体）
- 設置場所となる地域産業界のニーズの把握と、学校設置に関する理解

# 単位制について

## １　概要

単位制高等学校は、学年による教育課程の区分を設けず、決められた単位（74 単位以上で、学校ごとに定める）を修得すれば卒業が認められる高等学校。生徒は、自分の興味、関心、進路希望等に応じた科目を選択することができる。

現在、本県の全日制県立高校においては、学年ごとの教育課程を修了し必要単位を修得すると進級できる「学年制」をとる学校が多い。

## ２　単位制の効果

・生徒は希望する進路等、自分に合った科目を選択でき、自分のペースで学習に取り組むことが可能
・生徒は主体的に選択した科目から時間割を組めるため、モチベーションが向上
・病気や短期留学などで一部の単位が修得できなくても、長いスパンで必要な単位数を修得すれば卒業できるため、留年を理由とした退学、転学者が減少
・登校不安や学業不振生徒の心理的負担軽減
・留年がないため、１度修得した単位を再度履修することは不要
・１度修得した単位は転学や編入先の学校においても有効
・学校外の学修（大学の先取り履修など）の履修しやすさ

## ３　県内の事例

令和４年度から長野高校、屋代高校、松本県ケ丘高校、軽井沢高校の４校において、単位制の仕組みを活用した教育課程をモデル的に実施。生徒一人ひとりが主体的に学び、希望する進路等を実現するための開設講座の種類や内容、講座展開の仕方等についてその有効性や改善方策を検証中。

## ４　導入にあたっての課題

・多様な科目展開を行うために導入校の教員を増やす必要があり、人件費の増加や、教員の確保が課題
・生徒自らが科目を選択するために、興味関心や主体性が重要
・生徒ごとに異なる単位の修得状況について把握する必要

# 高校におけるインクルーシブな教育の充実について

## 1　概要

インクルーシブな教育とは、障がいのある生徒と障がいのない生徒が同じ場で共に学ぶことにより、互いに多様性を認め合いながら、共生社会の形成を目指す教育。

本県では、中学校特別支援学級から高校に進学する割合が約８割になっており、全国的にかなり高い。また、全ての高校に発達障がいの診断を受けている生徒が在籍している状況。

各高校における特別支援教育を充実する取組と特別な教育的支援が必要な生徒への通級指導教室の設置や、多様性の理解が進むように高校内に特別支援学校高等部分教室を設置する取組を行っている。

## 2　県内の高校の状況

### （1）各高校における特別支援教育を充実する取組

| | 取組み |
|---|---|
| 高校入試における対応 | ・「高校入試における合理的配慮のフロー」を作成し、全ての中学校、高校に配付。<br>・通知文「障がい等のある生徒の公立高等学校への進学にあたって」を毎年、高校から全ての中学校、特別支援学校に送付し、周知徹底を依頼。 |
| 特別支援教育に係る支援力の向上 | ・全高校で特別支援教育コーディネーターを指名し、校内支援委員会等を設置。<br>・特別支援学校に、高校巡回支援担当教員を各ブロック(東北中南信)に１名ずつ計４名配置し、高校の巡回支援を実施。<br>・各校で「発達障がい支援力アップ」出前研修を実施し、教職員の支援力を向上。 |
| 多様な教育的ニーズに応じる仕組みの整備 | ・特別な支援が必要な生徒について、中学校からの「プレ支援シート」、「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」等を活用した支援情報の確実な引き継ぎ。 |
| 卒業後を見据えた地域の多様な支援機関との連携強化 | ・地区別協議会等において、各圏域の相談支援機関、市町村福祉担当課等と高校を支える支援ネットワークを構築し、卒業後の自立に向けた連携を推進。 |

### （2）障がいのある生徒もない生徒も共に学び多様性の理解を深めるための取組

| | |
|---|---|
| 通級指導教室<br>※１ | ■設置校：３校（自校通級）　東御清翔・箕輪進修・松本筑摩<br>■指導人数：25 人（R5） |
| 特別支援学校高等部分教室<br>※２ | ■高等学校に併設：５校　更級農業・佐久平総合技術（臼田）・上伊那農業・南安曇農業・須坂創成<br>■盲学校に併設：２校　長野盲・松本盲<br>■各校学年１クラス（定員８人） |

※１　大部分の授業を通常の学級で受けながら、一部の授業について、障害に応じた指導を特別な場(通級指導教室)で受ける指導形態。

※２　特別支援学校の生徒が、地域や設置校と連携し、設置校の生徒と交流や共同学習を行いながら、社会的自立、職業的自立を目指すために設置。

## 3　通級指導教室、特別支援学校高等部分教室の具体的な事例

【通級指導教室：箕輪進修高校】

| | |
|---|---|
| 設置状況 | ・令和元年度設置、<br>・R5 年度は、２年生４人、３年生３人の計７人利用 |
| 取組状況 | ・週２時間、選択科目「グロウアップ（自立活動）」として教育的ニーズに応じた授業を実施<br>・個別指導計画、個別教育支援計画を作成 |

【特別支援学校高等部分教室：安曇野養護学校あづみ野分教室】

| | |
|---|---|
| 設置状況 | ・平成 22 年度開設、各学年１クラス（定員８人）<br>・R5 年度は、１年生８人、２年生６人、３年生８人の計 22 人在籍 |
| 取組状況 | ・南農グリーンサイエンス科フルーツコースとリンゴやぶどうの栽培方法を共同学習<br>・南農祭（文化祭）に参加。対面式、避難訓練合同実施 |

# ICT を活用した教育について

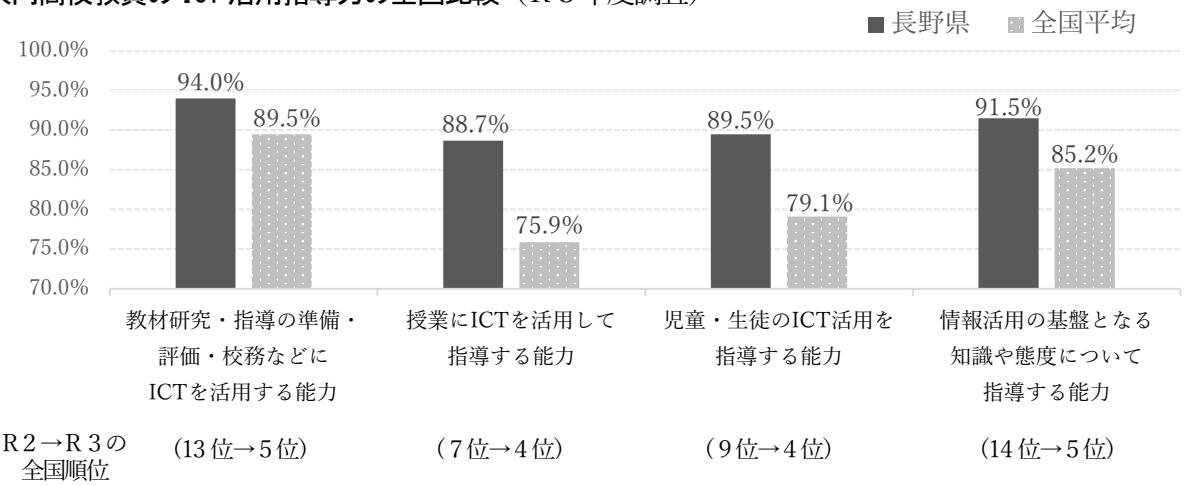
## １　概要

文部科学省は、「ICT 機器と学校の通信ネットワークを一体的に整備し、予測困難な未来を切り拓いていく力を、誰一人取り残すことなく育成する教育環境を実現する」GIGA スクール構想を推進している。

長野県では、１人１台タブレット端末を活用した学びの充実を推進。

高校では、全国に先駆け、令和４年度に全生徒が端末を持ち（1 年生は購入。2・3 年生は端末を購入または学校貸与)、順次個人所有の端末へ切り替え、令和 6 年度には全生徒が個人所有の端末を持参する予定。授業等の様々な場面で ICT を活用した学習活動の充実を図っている。

## ２　県内高校教員の ICT 活用指導力の全国比較（Ｒ３年度調査）




## ３　ICT を活用した教育の効果

・デジタルの力を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

・長期入院生徒へのオンライン学習支援の実施による療養中の学びを保障

・個人所有の端末にすることで、自由にカスタマイズでき、学校でも家庭でも愛着をもって大切に扱いながら、学びを豊かにする道具として活用が期待される

## ４　県内の活用事例

探究のプロセスにおける様々な場面において、ICT を効果的に活用

| | |
|---|---|
| 課題の設定 | 一人一台端末の活用により、仮想空間と現実空間の両面から、実社会が抱える課題を発見 |
| 情報の収集 | 文献検索、ネット検索、インタビュー、アンケート、実験、フィールドワーク |
| 整理・分析 | 統計による分析、思考ツール、テキストマイニング等で分析 |
| まとめ・表現 | 論文作成、プレゼンテーション、ポスターセッション、提言等で発信 |

## ５　推進にあたっての課題

（１）ICT 機器の効果的な活用等を含め、教員の指導力・資質の向上、先進的な活用実践の共有

（２）令和４年度に整備完了した電子黒板、無線 LAN 等の ICT 機器の更新

（３）生徒の ICT 機器購入の負担

（４）対面授業とオンライン授業のベストミックスの検討

# 令和４年度上田高校　保護者アンケート結果

【アンケートの集計状況】

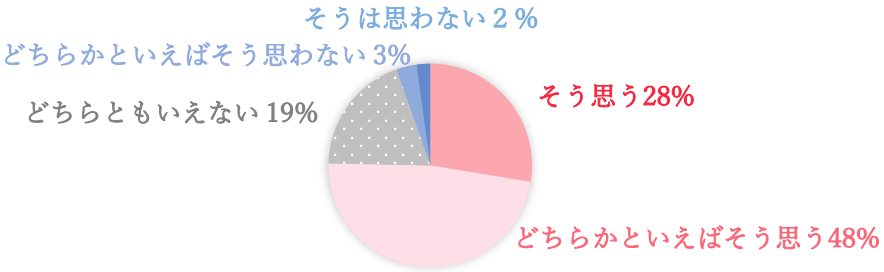
・回 答 率 … 全体 63.4%（602人/950人）

・回 答 者 … 母親 90.0% 父親 10.0%

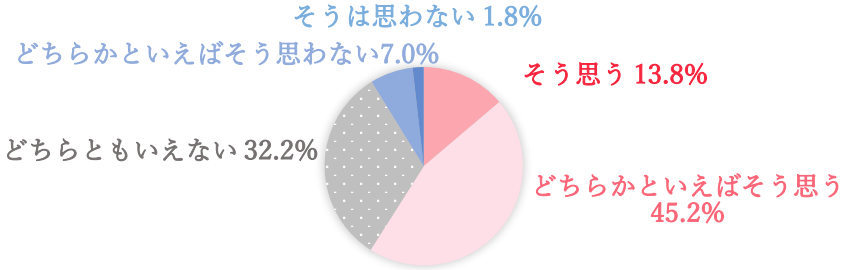
・回答者の子どもの性別 … 男子 50.6% 女子 49.4%

## 1　上田高校全体に関する評価

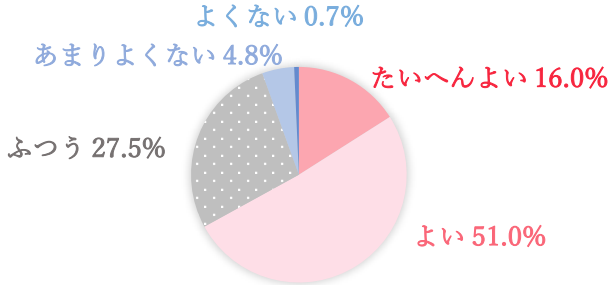
職員は一人ひとりの生徒を大切にして、クラスが楽しく
安心できる場所になるように努力していると思いますか？




学校は一人ひとりの生徒の興味関心や学習意欲を高め、
わかりやすく充実した授業を行っていると思いますか？

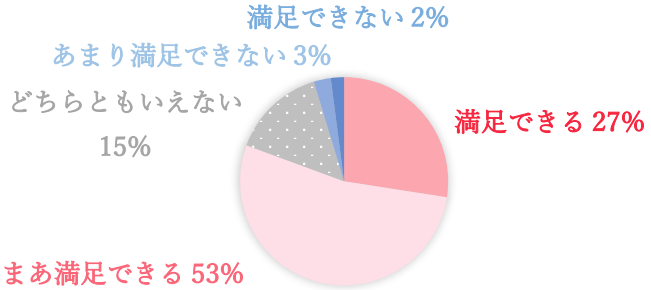



全体として、学校の教育活動をどう思いますか？




（参考）生徒（１～３年生）へのアンケート

上田高校の授業は総合的に評価して満足できる授業ですか？



## ２　自由記述欄の主な意見

### ○　授業内容

・実用的で大学受験に向けて力をつけられる様な授業をしてほしい。
・生徒の意見をよく聞き、特に理系科目、理科教科の強化をお願いしたい。
・補習をどんどんやらせてほしい。
・数%の東大京大を目指すような子どもたちにしかできないような数学の問題を解くことに、どんな意味があるのか。
・進学校で受験のために多くの内容を行わなければならないのだと思うが、興味の持てるような内容をもっと増やして頂ければと感じる。
・学びが、受験を学校が過度に意識させ、細かいところまで関与する必要はない。

### ○　習熟度別授業

・科目ごとで習熟度別のクラス編成をしてもらえたら良いと思う。数学など。
・一部の非常に数学が得意な生徒や東大京大レベルのトップの大学を目指す子どもたちは別のクラスにして数学の授業を進められた方が良いのではないでしょうか。

### ○　探究授業等

・各教科やワールド・ワイド・ラーニングの課題等が多い。
・いろいろな授業で電子黒板等を活用していて、生徒がグループで話し合ったり、発表したりしていて時代の変化を感じる。
・今年度から始まった大学の授業の先取り学習は、子どもにとって良い取り組みだと思う。

### ○　教員

・教科によって、授業のわかりやすさ、質問のしやすさなどバラツキがあるようです。
・先生、友達に恵まれて、楽しい学校生活を送っているようです。
・担任の先生に温かく心強い支援のお言葉をいただき、親としてありがたく思っている
・学習面でわからないところを聞きに行っているようです。丁寧に教えていただき、苦手だった教科が得意になってきたようでありがたいです。
・誠意ある対応・教育をしていただいており、良い環境で学校生活を過ごせて感謝

### ○　進路

・進路指導が大学進学、特に難関大学に偏っていると感じる。多様な進路を示しても良い
・進路指導を偏重しすぎて、肝心の勉強の面白さを伝える事が軽んじられていると思う。
・本人に任せ過ぎていてアドバイスもあまりなく、少し頼りなく感じるところがあります。
・進路指導など手厚いサポートをしていただき、とても感謝。

### ○　生徒への配慮

・勉強で苦戦している生徒のフォローをしてもらいたい。
・授業が進むのが早く大変そう
・文武両道が実現可能な内容の部活動と学習課題の量にして欲しい。

○　施設

・老朽化している学校施設の改善を。
・トイレ環境の改善。
・エアコン設置について早急な対応を。
・ロッカーが狭く不便。
・プールサイドを舗装して綺麗にして欲しい。
・備品は古すぎる。

○　部活

・部活は自主練も加わり終了時間が遅く、土日もかなりの時間をとられる。班活動と学習の両立が出来るように配慮して頂きたい。
・学校から離れている練習場所は、できるだけ選ばないでいただけると助かる。
・部活で困ったときに顧問以外に相談できる窓口を教えておいて欲しい。
・休日練習も多く大変ですが、良い仲間と一緒に活動できて良かったと思います。
・部活動では、コーチ含め先生、先輩方に熱心にみていただいていることに感謝。

# 「特色ある県立高校づくり懇談会」中間まとめ

## はじめに

長野県教育委員会は、生徒や地域の期待に応える県立高校の特色化を図ることを目的に、有識者から幅広く御意見を伺うための「特色ある県立高校づくり懇談会」を設置した。

懇談会では、これまで２回会議を開催し、「これまでの高校とこれからの高校」、「県立高校の入口出口」について議論を進めてきた。

これまでの２回の議論を踏まえ、教育委員会や各高校において、高校の特色化・魅力化について、議論を深めていく必要があるため、今回、いただいた御意見を内容別に整理した。

## １．これまでの高校とこれからの高校

### ○　県立高校の現状と課題

**【高校の情報発信】**

・「高校が見えてこない」、これは子どもたちの共通の悩み。
・私立はものすごく頑張っている。県立高校はもっと広報を。わかりやすい高校にしてもらうのも大事。
・県立高校はどんなことをやっているのか見えづらい。
・「高校にちょっと魅力がない」といろいろな方から言われるが、情報発信不足や校舎が古いことなどが大きな理由になっていくのではないか。
・高校現場では、そもそも発信すべき情報が少ない。
・高校現場はパンフレットやホームページで発信もしているが、厳しい予算の中で限界もある。

**【偏差値による高校選択】**

・偏差値とかで、どこの高校に行くっていうのが決まると感じた。
・中学生が高校選ぶときに、５教科の学力の点数はすごく大きな要因。
・原付で日本１周をして全国の中３の子の話を聞いたが、偏差値と距離で高校を選ぶ子が多いと感じた。
・特色で選んでもらうことを目指しているが、まだ現場では欠けている。
・普通科でも、こんなやり方で可能性を伸ばしますというような武器がないと選ばれない。

**【特色化の必要性】**

・現在の高校に「特色」がないなら、時間割、単位、学び方、学習環境、カリキュラム、人事など抜本的改革が必要。
・私立の通信制の高校に通う人が過去最大。学校に行って学ぶというスタイルを大胆に変えてもいいのではないか。
・移住で選ばれる理由の一つは、教育環境。
・県立高校でも他県から生徒が来るレベルの改革を期待したい
・高校には、普通科、職業科、全日制、定時制、通信制などがあるが、そういう制度をこわした学校みたいなものをモデル校として作ってみたら。

## ○　これからの高校に必要な視点

**【高校で育むべき力】**
・失敗することもあるが、社会に出てからその失敗した経験も力にもなると思う。
・生きるイコール稼ぐ力だと思うが、稼ぎ方を知らない子が多い。
・成功体験や前に進めていく体験が大事。やりたいことを突き詰めた結果、お金が必要になるから、そのためにどうすればいいかという経験があってもいい。
・若い人たちに、突き詰める環境を私達が懐深く持てるかが勝負。失敗したとしても、何が必要だったのかを突き詰めていこうというところに学びが生まれる。

**【改革の方向性】**
・「自分の学びたいことを選べる」ことをキーワードに考えてみたらどうか。
・若い人たちがやりたいことがやれることが重要。
・高校は就職する子も進学する子もいる。高校の役割はそこをどう考えるかということが重要。
・高校生をこれからの社会を共に創造していくパートナーと位置付け直すと、そこでの学びは、生きるための能力観に矮小化されてはだめで、自己調整学習に焦点を当てた学びや人生を「楽しむ」ウェルビーイングとの距離感にも目配せをして、学びのイメージを刷新していく必要がある。
・収入に関係なく、進学意思がある子が進学できる体制が必要なので、公立は残して欲しい。

**【多様な選択肢の確保】**
・総合学科ではスポーツトレーナー養成学校の授業を受けるなど、特色のある学びをしており、選択肢があることは重要。
・「選択肢を増やす」と「その選択肢を選択できる」ことは別の話で、実質的に多くの人が選択できるように環境を整えていく必要がある。

## ○　これからの高校に求められる特色化や学び

**【特色化の例】**
・校則が厳しいことに疑問を持つ子が多いので、意味のある校則を生徒と一緒に作ろうというテーマで学校をスタートした。
・公立高校でメイクの授業がある学校が佐賀県にあるが、社会に出る準備、自分のしてみたいことができる高校は人気。
・例えば、学校でサウナ施設を作り、どのような施設にしたらお客さんが来るかとか、何か成功体験をさせてあげるのはすごく良いこと。

**【学びの改善】**
**（オンライン活用）**
・長野県の素晴らしい人たちと学びたいと思った子どもたちをオンラインで繋いでみることもできると思う。
・長野県は山が多くて県域が広い。全県とか県内からオンラインで学ぶというプログラムも魅力の一つになるのではないか。

**（選択と集中）**
・どこでも学べる部分はオンラインや通信制を使って共有化をしながら、残りのリソースは生徒たちと向き合い、ここだからこそできる学びに振り分けていくのが根本的な戦略。

**（体験学習等の充実）**

・高校生のインターンシップのような、地域のニーズと高校生の体験学習を融合し、それらの体験を単位に変換できる制度を設けることができればいい。
・フランスのワーキングホリデーをしたが高校の単位とか認められていたので、そのようなやり方もあれば良い。
・「みんなでグループ学習のようなことで一つの事を話し合って学習をしていく授業」とか、「いろんなカリキュラムを選べる高校」に子どもたちはとても魅力を感じると言っていた。
・屋代付属中が、スタートアップ補助金で買った３Ｄプリンターで小学生向けの科学教室をやっているが、リアリティのある課題は、様々に展開できる大事なテーマ。
・各学校から代表者を募り、「高校生会議」を開催し、行政に携わる経験をさせることがいい。

**【多様な生徒への対応】**

・学校は、平均的にできる子を求めているように思う、何かに特化した子を受け入れてくれる学校は非常に重要。
・高校受験に関して、発達障害の子に対する配慮がどの学校でもできるようにしてもらいたい。
・試験に関してはルビ振りとかをやっている。
・外国籍の生徒をどう育ててあげるかは課題。
・配慮が必要な子をフォローする環境を整えることが必要。

## ○　特色化にあたっての留意点

**【地域との連携】**

・特色のカギは、学校の中だけでやろうとしていないこと。地域にある自然や文化等を教育資源に変え、それを活かした魅力ある教育をつくっていくべき。
・学校と地域や企業との壁を低くすることが必要で、それをコーディネートする人材をきちんと確保しなければならない。
・学校と地域の関係者をつなぐコーディネート人材が全国的に見ても重要。
・高校生のＵターン率が高めるには、高校時代に、この地域で生き生きと幸せに働くロールモデルとの出会いがあるかということ。

**【教育資源の活用】**

・子どもたちが「明日、学校に行きたい」と思える学校を長野県の素晴らしいリソースを使ってつくることが必要。

**【教職員の処遇改善】**

・高校の特色をより磨いていく上で、現在の教職員だけで限界があるなら、県が予算計上し、それを専門に担うコーディネーター人材等の育成・設置等の検討が必要不可欠。
・教員をどうエンパワーメントしていくのかということは重要なテーマ。
・高校教師には塾講師がうらやむくらい待遇の良さがなければいけないと思う。

**（参考）オブザーバー意見**

**【特色化の必要性】**
・通信制高校の生徒が多くなる中で、工場型の教育のあり方っていうのを、まず変えなくてはいけない時代になっている。

**【改革の方向性】**
・子どもが持っている特性をこれからの世界に活かせるように育てていくには、個別最適性も重要なキーワード。
・子どもの数が減る中、高校入試のあり方や高校までの義務教育化も少し検討する必要がある。

**【多様な選択肢の確保】**
・特色には、英語で学べる学校、中高一貫、全国募集など様々な観点がある。

**【選択と集中】**
・どこでもできる学びとそれ以外の学びを意識的に峻別していかないと、限られた資源を有効に活用できない。

**【地域との連携】**
・学校と地域がフラットに繋がってほしい。

**【教育資源の活用】**
・長野県の強みという特色を生かして、高校のあり方に繋げるもが重要な視点の１つ。

**【教職員の処遇改善】**
・新しい教育を単にプラスするだけだと、教員数を倍増しても足りなくなると思うので、先生の役割をどうするかを県民のコンセンサスをいただきながら解決する話だと思う。

## ２．県立高校の入口出口

### ○　入口の現状と課題

**【高校の情報発信】**
・中学生には、学校が見えにくいので、もっと情報を知りたいというニーズがありそう。
・情報が不足しているので、工業や農業などは親の影響などがないと選ぶチャンスがない。
・進路選択できない子もいるので、普通科は特色を作って発信しなければいけない。
・工業高校のプレゼンテーションを中学校で実施するなど、宣伝活動が必要。

**【偏差値による高校選択】**
・偏差値縦割での学校選択は存在する。
・大卒と高卒との給与差が大きいので、みんなとりあえず普通科で大学を目指す。
・偏差値以外の特色がないと、偏差値の枠は破れていかない。

**【進路希望把握についての課題】**
**（既存の学校・学科枠での選択）**
・既存の学校の枠にとらわれた形で、中学生が答えてしまう調査を見直す必要がある。
・固定的な学科構成により生徒の希望を誘導している恐れは、事実としてありうる。
・長野は海外からも認識されているので、海外からも学生を集める高校とか、未来に繋がっていくような話が必要。

**（調査時期）**
・塾の多くの子は、８月には希望校を決めるので、10 月の段階で、子供たちの希望かというと、何とも言えない。
・10 月の調査は、実際には偏差値で輪切りにしていることがあり、純粋な希望とは言い切れないのではないか。

**（中学生の選択能力）**
・希望を聞かれてもわからないという生徒も多く、周りが言うことに流されてしまうのではないか。
・希望は大事だが、調査のあり方とか、そもそも生徒はきちんと判断できるのかという、現実的な話があるので、そこはしっかり向き合っていく必要がある。
・生徒の希望を大事にすることはとても重要なことだが、現在の調査方法で皆が納得するかと考えると、少し弱いかもしれない。
・中学段階でいろいろな話を聞く機会を増やすことが、高校や大学をどうするかというところに繋がる。

**【育むべき力】**
・一番高校として大事なのは未来を作り出せるような力を持った生徒を育てられるか。
・人間力とか探究力を伸ばすために、様々なことを経験することが大事。
・県内生徒や先生たちに「とりあえずやってみようマインド」がもう少しあってもよい。

## ○　出口の現状と課題

**【学んだ学科と関連のない職業への就職】**

**（農業科）**

・製造業でも食品加工やバイオテクノロジー、環境を扱う業種などは農業科で学ぶ知識を活用できるのではないか。
・農業科の子が製造業の食品加工の仕事に行っていると思うのでそれも踏まえる必要がある。
・農業科の学生に農業という就職先がないのは、農業界の課題だと感じる。
・農業好きな子は一定数いるが、就職先に農業がないという状況があるのではないか。
・農業科を出た子がすぐに農林業に就くように誘導するのは、今の時代ではナンセンス。

**（求人票に基づく就職）**

・現場の感覚からすると、製造業の求人が４割強ぐらいと多く、普・農・工・商で就職している割合も求人票の割合と同じようになっている。
・学んだ学科と関連のない職業への就職状況が、求人票の選択肢に依存するならば、そこを改善することによって構造が変わるかもしれない。
・直接農家に就職する高校生はあまりない。求人票がないから。
・ハローワークの求人票ではない別のルートで農業に就職できる形ができてこないと農業への就職は難しいと思う。

**（学科と無関連な職業への就職）**

・学んできたことが生かされていないことは実際にはないのでは。
・高校で基礎学力を身につけ、大学で専門性を養い、その先に世界が広がった経験から言うと、高校から専門の勉強をいきなり始めると、逆に可能性が縮まることもあると思う。
・学科で捉える思考パターンに囚われすぎており、学科で進路のあり方を考えるということ自体がナンセンスでは。
・産業界の人材不足への貢献を地元定着と理解した場合に、それはコントロール可能か、むしろコントロールする姿勢を示すことが、若者にマイナス要件になるのでは。
・現場の職員としては、違う方面への進路選択は、「ミスマッチ」というよりも、生徒たちが自身と向き合った結果の「進化」と考える。
・実際の高校卒業者は、学んだことを活かしていないと矛盾を感じているのだろうか。
・人手を確保できないという課題は、企業の求人数に対して就職者が足りていない状況を考えると、教育への要請だけでは解決しないと推測できる。

**【出口に対応した学び】**

**（学科を超えた共通の学び）**

・学科構成をどうするかより、従来の学科でどうやって未来の作り手を育てるのか、それに対応した学びを作れるのかというのは非常に大事。
・学科別の卒業先にこだわるよりも、学びの選択肢が広い総合学科や総合技術高校など、カリキュラムの改革が必要では。
・学科構成もさることながら、先生方のマインドチェンジも大きな課題。
・全産業が共通して求める能力は、どんな進路でも活躍できる力。
・インターンシップやフィールドワークなど、校外に出て他者と関わる機会を増やすべき。
・生徒のニーズか社会ニーズかという対立的な発想ではなく、生徒がこれから生きていく社会のニーズを踏まえてそこを繋ぐことが重要

**（キャリア教育の充実）**

・学科構成の修正ではなく、社会人と接する機会をもっと設定していくべき。
・輝く大人たちと出会うと子どもたちに化学反応が起こる。そのような場を作ることが必要。

・ふるさとにはどんな職種職業があるのかを知ってもらうことが一番大事。

**（職業科での進学に向けた学びの提供）**
・進学をしたくても職業校でサポートが弱いとしたら、補強しなくてはいけない。
・職業科の生徒が大学進学を目指せるよう、普通科の学びを取り入れることが必要。
・専門科にいても、進学希望者に対するケアを充実させることは、学習権保障という点においてもとても大事。

**【地元愛・地元就職】**
・進学で他県に出る生徒もいるが、長野県に戻ってもらうには、高校生活の中でどれだけ地域にアクセスできるかが大切
・地元でこれからも生きていきたいという子もいるが、外の世界を経験して、そしてこの地元愛を育んで欲しい。
・１人ひとりのウェルビーイングや人権などが大切にされて初めて地元愛は自然に育まれる。
・長野県のことが好きすぎるあまり、生徒が外の世界を知らないのではと不安。
・長野県や日本という軸を持って、これからやることに挑んでいってほしい。
・グローバルな視野を持ちつつ足元のローカルなこともやることは大事。

## ○　入口出口の対応方法

**【ニーズの把握】**
・社会のニーズ把握には、現在の企業が求める力というより、子どもたちの５年、10 年後に必要な力といった観点が大事。
・産業構造はどんどん変わるので、社会ニーズは先を見ながら考えていく必要がある。
・中高校生のキャリア発達は可変性が高いので、今の希望やニーズだけを考慮して設計するのも不十分だし、今の産業界のニーズだけを考慮して設計するのも駄目だとすると、未来のニーズを県が示すしかないということになるのではないか。
・長野県の産業は時代が変わっても、そのニーズを先取りして継続してきており、今のニーズに応える人材を送ってくれればよいという考えの経営者はそんなに多くない。
・適切な希望の把握には、中学生の中に大切な基準があり、かつ高校側に選択肢があり、その情報がきちんと伝わっていることが必要だが、その条件が整っていない中での生徒の希望で決めるのはちょっと乱暴。

**【学科構成比の決定方法】**
・中学生の希望を聞くのもいいが、県がどういう県にしたいのか、教育をどうしたいのかを、県や教育委員会が専門的な知識を持った上で決めていくべき。
・こういう未来を作るという県のビジョンと、未来のニーズからどういう教育が必要かを、バランスを見ながら、県立高校をデザインしていくというのが基本
・県のビジョンに見合った形にするのも一つの方向
・農・工・商という分類よりも、そこでどういう新しい価値を生み出せるのかという観点で、学科そのものを変えていく方法もある
・学科の構成を変更するということだけでは、解決は困難だと思うので、カリキュラム編成まで手を入れなくてはいけない。
・専門学科で学んでいる子どもに、今後の専門科をどうしていくかを聞くことも大きなヒントになるのでは。

**（参考）オブザーバー意見**

**【偏差値による高校選択】**
・この地域でこの成績だったらこの辺みたいな相場観がある。

**【既存の学校・学科枠での選択】**
・進学重点校という高校が必要か否かという議論は少なくともすべき。
・介護学科は長野県にはないし、観光も白馬だけで地域的に限定される。
・海外大学に直接行く子どもの大学進学をどう考えるのかということは重要。
・中高一貫教育を、メリットデメリットを検証しながら、検討する必要がある。
・公立高校同士の編入はもっと簡単にできる工夫が必要。

**【学んだ学科と関連のない職業への就職】**
・農業科を出たから必ずしも農業をやる必要はないが、農業科から農業に就く人が少ないなら何らかの議論が必要。

**【出口に対応した学び】**
**（学科を超えた共通の学び）**
・変化が激しい中、時代が変わっても通用する学科に捉われないコアカリキュラムが必要。

**【ニーズの把握】**
・今のニーズに対応するのではなく、未来のニーズをどう汲み取るのは非常に重要。